

一関市と宮城県気仙沼市が手を取り合って運営
にぎやかで懐かしい昭和のまちを再現

2015せんまや気仙沼街道まつり(実行委主催)は5月17日、千厩町四日町、同東栄町の商店街で開かれました。歩行者天国になった沿道では、クラシックカーとバイクを展示した「気仙沼オールドモーターズミーティング」、気仙沼復興応援市や千厩なつかし昭和展など多彩な催しが開かれました。

千葉喜久さん(37・千厩町)は娘の花梨ちゃん(5つ)、未来ちゃん(2つ)と訪れ「毎年楽しみにしているイベント。子供たちも楽しんでいる」と話しました。実行委は「今年で4年目を迎えた。イベントを通じて、震災復興、まちづくり、交流人口の拡大など、さまざまな思いを実現したい」と意気込みました。



名勝・狛鼻溪で風流楽しむ「新緑の茶席舟」
県内外の60人が「雅」なひととき過ごす

藤の花が見ごろを迎える初夏の風物詩「新緑の茶席舟」は5月7日、東山町の狛鼻溪で行われ、県内外から訪れた60人が船上で茶の湯と絶景を楽しみました。

毎年5月の第3日曜日に行われている茶席舟。1日3隻、限定60人が参加できる人気イベントです。抹茶を入れるのは、同地域の小玉宗義先生と近藤宗幸先生。参加者らは、新緑が彩る風景と和のおもてなしが織りなす雅なひとときを堪能していました。

姉妹で参加した志水富佐子さん(宮城県仙台市)と三浦裕子さん(愛知県名古屋市)は「茶席舟は初めて。美しい新緑の中で、貴重な体験ができました」と話してくれました。



リサイクルや環境問題について考える
牛乳パックを使った小物入れづくりに挑戦

「牛乳パックを使ったカルトナーージュ講座」は5月12日、一関清掃センターで開かれました。カルトナーージュとはフランスの伝統的な手芸。参加者らは持参した牛乳パックに布を貼ったり、切ったりして小物入れづくりに挑戦しました。

狐禅寺から参加した佐々木喜久子さん(74)は「捨てればごみになる牛乳パックも、集めれば資源に。ボケ防止にもなる一石二鳥の講座ですね」とっこり。

一関清掃センターでは、市民を対象にガラス瓶、アルミ缶、段ボールなどを使った工芸講座を開き、環境について考える機会を作っています。



夏山シーズン到来、栗駒山で山開き
残雪を踏み分け、多くの登山客が山頂目指す

岩手、秋田、宮城の3県にまたがる栗駒山(標高1,626m)の山開きは5月17日に行われ、登山愛好家などが登山シーズンの幕開けを祝いました。

須川ビジターセンターで行われた安全祈願祭には、登山愛好家や関係者ら約50人が参加。登山客の安全と観光客の来訪を願いました。テープカット後は、雪が残る山道を約2時間かけて登り、山頂で360度の大パノラマを楽しみました。

宮城県仙台市から夫婦で参加した山田孝さん(72)と千さん(67)は「雪溪の登りはきつかったが、昨年よりも天候もよくて歩きやすかった。また登りたい」と話してくれました。

ブランド和牛の祭典「大牛肉博」に参加
「いわて南牛」がこだわりの丼で好評博す

全国5つのブランド和牛の食べ比べができる「大牛肉博」(同実行委員会主催)は4月25日～5月10日の16日間、東京都新宿中央公園で開かれ、約7万人の来場者に一関地方の自慢の味「いわて南牛」を売り込みました。

出店したのは神戸ビーフ、鹿児島黒牛、仙台牛、米沢牛といわて南牛の5つ。それぞれが工夫を凝らした牛丼と焼肉丼を提供し、「いわて南牛」は米や調味料などの一関産の食材にこだわりました。4月26日と5月5日には、勝部修市長がトップセールスを行い、良質で安全安心の「いわて南牛」の魅力を首都圏にPR。知名度アップや来場者の反応に手応えを感じていました。



ぼたん320種4,000株が咲き誇る「ぼたんしゃくやく祭り」
20周年を迎えた花と泉の公園・ぼたん園

花泉町の花と泉の公園で5月9日、「ぼたんしゃくやく祭り」が開幕しました。同日、オープニングイベントが開かれ、見ごろを迎えた花々が市内外から訪れた約600人の目を楽しませました。

同公園では、約320種約4,000株のボタンと40種3,000株シャクヤクを栽培。気温の高い日が続いたため、例年より10日ほど早くボタンが開花しました。

今年は、ぼたん園が開園して20年目。花泉観光開発の佐々木登代表取締役は「今後も、株を充実させ、一株一株の手入れをしっかりしたい。地域や東北の皆さんに愛される公園を目指し、PRに力を入れていく」と決意を新たにしていました。



アストロ・ロマン大東で雄大な自然がお出迎え
新緑の室根山でGWフェスティバル

GW(ゴールデンウィーク)フェスティバルは5月3～5日、室根山エリアにあるアストロ・ロマン大東で開かれました。期間中はパン焼き体験やマウンテンバイクの貸し出しなど、自然と親しむ企画が盛りだくさん。長さ101mのローラー滑り台やアスレチック遊具の周辺は、多くの家族連れでにぎわい、子供たちの歓声に包まれました。

初日は風薫る丘みちのく乗馬クラブの協力による乗馬体験「お馬さんに乗ろうよ!」が行われ、行列ができる盛況ぶり。登米市から訪れた高橋弥月くん(5つ)は「はじめて馬に乗った。楽しかった」と笑顔を見せました。



地域に愛されてきた「ゆりのき校舎」に活気戻す
思い出いっぱいの校舎で懐かしの授業

川崎まちづくり協議会(伊藤力議長)が主催する「本日は登校日! ゆりのき校舎事業」は5月5日、2012年に閉校した旧門崎小で行われ、参加した同地域の親子ら約70人が思い出の校舎で行われた授業を満喫しました。

授業では、同校の「ゆりのき」の由来について学習したり、紙飛行機で飛行距離を競いあつたりしました。給食は、揚げパン、焼きそばと瓶牛乳。思い出の校舎で、昔懐かしい一日を過ごしました。同協議会の金野和則議員は「廃校舎に活気があれば、地域にも元気が戻ります。参加者たちの地域の良さを再発見するきっかけになればうれしい」と話してくれました。